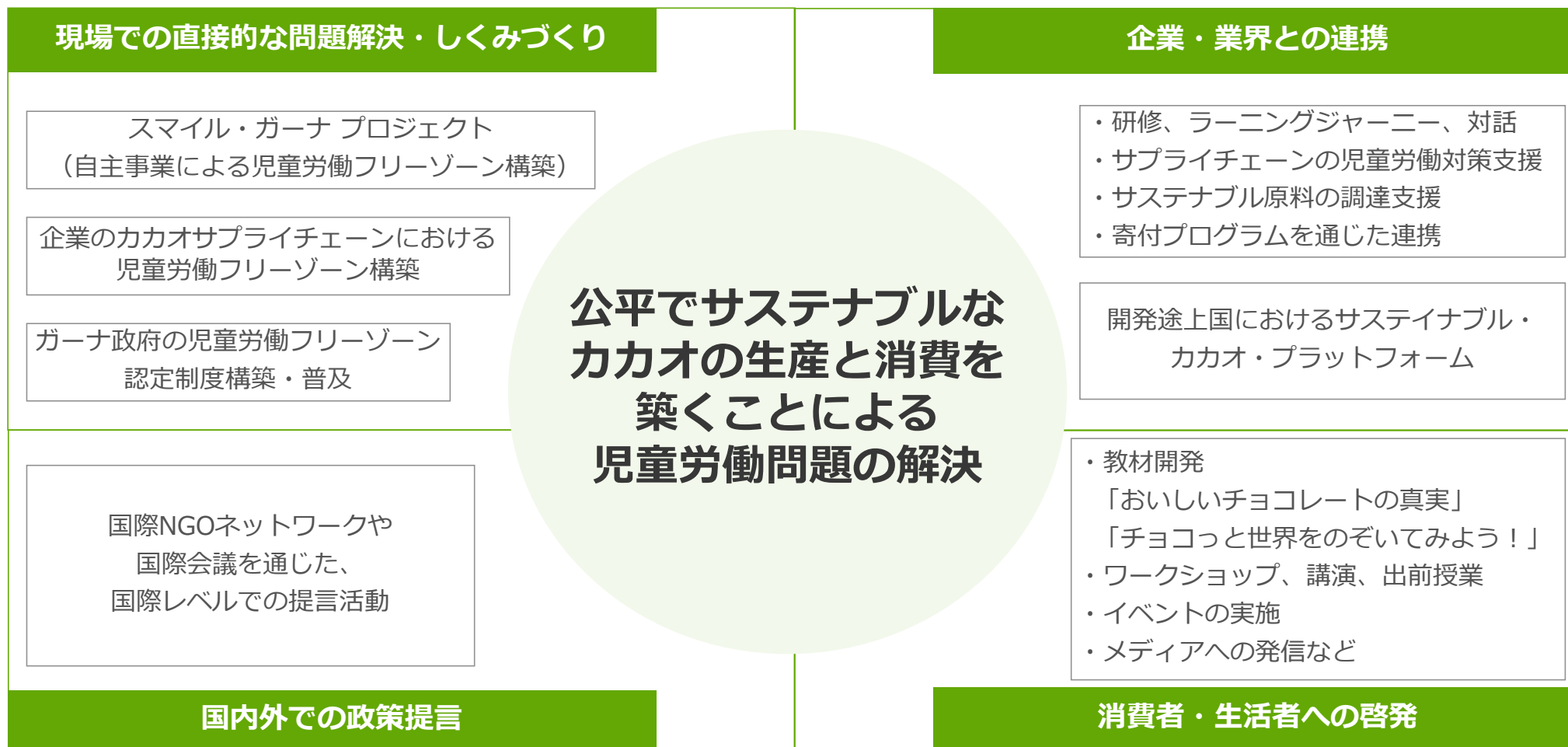


しあわせへのチョコレートプロジェクト 活動報告書

2025年4月～2026年3月
認定NPO法人ACE



しあわせへのチョコレートプロジェクト 全体像



これまでのあゆみ

草の根
活動

2009～

ガーナにて「スマイル・ガーナ プロジェクト」実施

アシャンティ州アチュマ・ンブニユア郡の1村7集落からスタート。2018年以降はアハフォ州アスナフォ・サウス郡に活動地を移し、これまでに12村102集落で活動を実施。

2011～

企業寄付によるガーナの活動支援（チョコレートの売上からの寄付を含む）

2011年より、森永製菓「1チョコ for 1スマイル」の支援パートナーに。
その後、企業支援が増加し、累計50企業が支援に参加。

企業・業界
との連携

2020～

業界プラットフォームを通じた取り組みの推進

開発途上国におけるサステイナブル・カカオ・プラットフォーム81加盟企業・団体中、25企業・団体が児童労働撤廃に賛同し、分科会に参加。

2022～

企業のサプライチェーンでのCLFZ構築

企業2社との連携で、カカオサプライチェーンにおける児童労働撤廃と農家の収入向上に取り組む。

政府との
連携

2018～

ガーナ政府の「児童労働フリーゾーン」認定制度の構築支援

自主事業としてCLFZガイドライン策定を支援した後、JICAの委託事業を通じて支援。
4郡にてCLFZ実現をめざす。

2026

ガーナにて初の児童労働フリーゾーンの認定承認！

（詳細は12～13ページ）



活動ハイライト



ガーナでの活動

児童労働フリーゾーンの推進

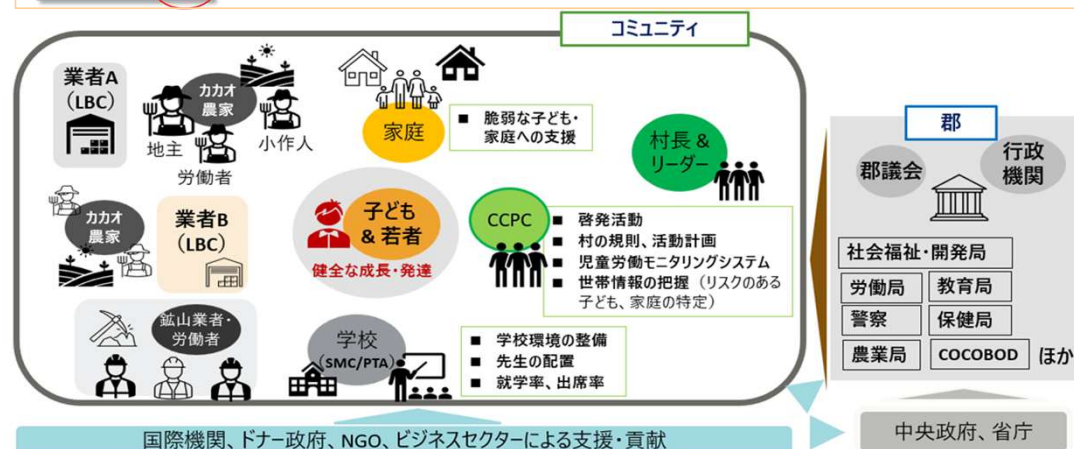
児童労働フリーゾーン(CLFZ)制度とは：地域ぐるみで児童労働をなくし、すべての子どもが学校に通える環境をつくる仕組み

- ACEはスマイル・ガーナプロジェクト（SGP）を通じて、コミュニティ主体で児童労働をなくすノウハウを培ってきました。一方で、SGPだけでは直接支援できる地域に限られるため、より広い地域へ展開可能な仕組みの必要性を感じていました。そうした中、ガーナ政府が構想していた児童労働フリーゾーン（CLFZ）とACEの考え方が合致しました。
- CLFZは、地域全体で児童労働の予防・是正に取り組む「**エリアベース・アプローチ**」を採用した制度であり、2020年に政府が策定したガイドラインに基づき、要件を満たした地域を「児童労働フリーゾーン」として認定する仕組みです。ガイドライン策定にはACEも参加しました。
- ガイドラインの整備を契機として、SGPでは基準に沿ったコミュニティづくりを進めており、また2022年に開始した**江崎グリコとの連携事業**でも、CLFZ認定要件を踏まえた取り組みを実施しています。
- さらに、ガーナ政府は国家計画のもとでCLFZガイドラインの普及と面的拡大を進めており、日本政府への協力要請を経て、2024年より**JICA事業（児童労働フリーゾーンを通じた子どもの保護主流化プロジェクト）**を通じた支援を開始しました。ACEもその一員として参画しています。
- 加えて、**ILOやUNICEF**といった国際機関との連携も始まるなど、多様な関係者との協働を通じ、取り組みの広がりが生まれています。

CLFZガイドラインでは、A～Gの7つの大項目のもとに、25の要件（指標）が定められている



- A コミュニティレベルで児童労働や子どもの保護に関する理解がされているか
- B 子どもの保護に関するコミュニティ規則があるか、機能しているか
- C コミュニティレベルで（CCPCによる）児童労働をモニタリングする仕組みが機能しているか
- D 支援が必要な子どもや家族を特定し、支援策が提供される仕組みが機能しているか
- E 適切が学校環境が整っているか
- F 自治体（郡）による支援・サービス実施体制が整っているか、機能しているか
- G 児童労働が削減、撤廃されているか



CLFZ認定プロセス

**1. 事前評価
(Pre-Assessment)**
郡行政府による自己評価
(基準の80%以上達成)



※認定は、エリア/ゾーン・カウンシル単位（最小行政区のこと）で実施

**2. 本評価
(Main Assessment)**
政府評価チーム（NSCCL）による現地評価→ A/B/C/Towards CLFZ に格付け



**3. CLFZ認定
(Declaration)**
NSCCL承認後、A～C評価のゾーンをCLFZ認定



**4. 認定後レビュー
(Post-Declaration Review)**
・毎年：内部レビュー
・3年毎：外部レビュー

認定後も毎年レビュー

スマイル・ガーナ プロジェクト

- スマイル・ガーナ プロジェクト（正式名称：持続可能なカカオ農園経営と教育を通じた児童労働撤廃プロジェクト）は、すべての子どもが質のよい教育を受けられるようになることをめざし、現地のNGO「CRADA : Child Research for Action and Development Agency」と連携して実施しています。
- 村ごとに3～4年の期間で一連の活動を実施することで、ガーナ政府のCLFZガイドラインに沿ったコミュニティづくりを進めています。

スマイル・ガーナ プロジェクト 支援の3つの柱

子どもの保護と教育



- ・ 貧困家庭への学用品の無償支給
- ・ 学校環境の改善（教員トレーニング、学校給食）
- ・ 子ども権利クラブの創設と運営
- ・ 人身取引からの子どもの保護と家族との統合

貧困家庭の収入向上



- ・ カカオ農家に対するカカオ栽培研修
- ・ カカオ以外（米）の現金収入源の確保
- ・ 貯蓄貸付組合の組織化

地域の能力開発



- ・ 児童労働モニタリングシステムの構築（子ども保護委員会）
- ・ コミュニティ規則の制定
- ・ 自治体関係機関等との連携

これまで活動をしてきた地域と実績	・ 2州2郡12村+103集落 ・ 総人口：約9,400人 ・ 子ども人口：約4,700人
現在活動中の地域	アハフォ州アスナフォ・サウス郡の2村+25集落（2022年9月～現在：フェーズ6）
過去のプロジェクト地域（フォローアップ中）	・ アハフォ州アスナフォ・サウス郡の2村+24集落（2018年～2022年8月：フェーズ5） ・ アシャンティ州アチュマ・ンブニョア郡の8村+54集落（2009年～2016年：フェーズ1～4）

スマイル・ガーナ プロジェクト

地域とともに進める、児童労働の予防と就学支援

- 子ども保護委員会（CCPC）、学校、保護者、コミュニティリーダーと連携しながら、地域主体による児童労働の予防と就学支援、生計向上を一体的に進めました。CCPCによる定期的な見回り活動を通じて18人の児童労働を特定し、家庭へのカウンセリングや働きかけを行うことで、子どもたちを学校へ戻す支援につなげました。
- また、児童労働のリスクが高い80人の子どもに学用品を提供し、安心して学び続けられる環境づくりを支援しました。さらに、2校・約270人を対象とした給食支援を継続していましたが、うち1校では2025年3月からガーナ政府による学校給食プログラムが導入されました。もう1校でも、コミュニティによる継続的な行政への働きかけにより教員の増員が実現しています。地域住民自身が声を上げ、行政を動かしながら子どもの権利を実現していく——権利ベース・アプローチの成果が、具体的な変化として表れています。



子ども保護委員会メンバーと生徒たち



子ども保護委員会会合にて挨拶をする、新しく赴任してきた教員たち

スマイル・ガーナ プロジェクト

村落貯蓄貸付組合 (VSLA) が広げる地域の支え合いと子ども保護

- 2024年10月に設置した4つの村落貯蓄貸付組合 (VSLA) は、第1サイクルを完了し、総貯蓄額GHS 458,280、貸付返済率95~100%という高い成果を達成しました。住民同士が資金を出し合い、必要なときに融資を受けられる仕組みは、家計の安定化や教育費の確保につながり、児童労働の背景にある貧困リスクの軽減にも寄与しています。参加者の56%は女性であり、活動を通じて女性たちの経済的自立や家庭・地域での意思決定への参画拡大も確認されています。
- 2025年10月から開始した第2サイクルには148人が参加しており、地域主体による持続的な運営が継続されています。
- VSLAでは、貯蓄・融資だけでなく、「社会基金 (Social Fund)」も運営されています。この基金は、子ども保護活動や学校支援、地域課題への対応など、コミュニティ全体のために活用されており、住民自身が地域を支える仕組みとして機能しています。



VSLAグループ会合の様子



小学校校舎の建て直しのためのセメントを社会基金で購入

スマイル・ガーナ プロジェクト

若者の自立を支える職業訓練プログラム

- 児童労働を経験した若者の中には、十分な教育を受けられず、安定した仕事を得ることが難しいケースがあります。プロジェクトでは、11人の若者を対象に、美容・洋裁分野での職業訓練支援を実施しています。
- 訓練生には、ミシンや美容道具など、学習に必要な資機材一式を提供し、地域の職人のもとで実践的な技術を学べる環境を整えています。スタッフは定期的に訓練先を訪問し、進捗確認や相談対応、励ましを行いながら、若者たちが途中で諦めることなく学び続けられるよう支援しています。
- 職業訓練は、単に技術を身につけるための支援にとどまらず、若者たちが「自分の力で生きていける」という自信を持ち、将来への希望を取り戻していくための重要な機会となっています。



洋裁訓練所講師（左）と訓練生 シャロン（右、仮名）。シャロンは大好きなファッションを自分のキャリアにしていく夢を胸に、一年後の試験に向けて技術取得に努めています。



洋裁訓練所講師のアビゲイルさん。少女たちに技術だけでなく、自分の人生を選び取る力を伝えるメンターとして寄り添っています。彼女は「自立した少女たちが将来、自分の子どもを学校に通わせることで、児童労働の連鎖を断ち切ることができる」と語ります。

企業との連携事業を通じたCLFZ構築の取り組み (江崎グリコ)

■コミュニティにおけるCLFZの仕組み構築

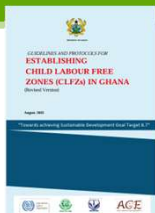
江崎グリコのCSR調達方針（2022年公表、24年改訂）に沿って、同社がカカオ豆を購入しているガーナ アシン・サウス郡の8村において、ガーナ政府のCLFZガイドラインの要件に準じた児童労働の予防・改善の仕組み構築を支援しています。住民グループから構成される子ども保護委員会（CCPC）による児童労働のモニタリング活動やコミュニティ活動計画の策定などを支援したほか、児童労働のリスクが確認された場合の救済支援の実施にも協働で取り組んでいます。

■チョコレートメーカー×カカオ調達商社×NGOの連携

本事業では、カカオ調達商社の立花商店によるカカオ農家の生産性向上、コミュニティのインフラ整備等も実施されており、3社の連携による統合的な生産地支援に取り組んでいます。



プロジェクトで学用品を受け取った子どもたち



ガーナの児童労働フリーゾーン制度構築 ーJICA委託事業を通じて

制度運用体制の整備と現場での実践が進み、CLFZ認定に向けた基盤が大きく前進しました。

■制度強化に向けた取り組み (政府・制度レベル)

ガーナ政府が国家計画の一部として推進する児童労働フリーゾーン（CLFZ）認定制度の強化・普及を、JICAのプロジェクト（2024年2月～2027年2月）を通じて支援しました。

制度の持続化に向け、中央政府の実施体制強化、省庁間および関連ステークホルダーとの連携促進、CLFZ認定を担うアセスメントチームの立ち上げや各種ツール整備を進めました。あわせて、制度を支える資金動員メカニズムの検討も推進しています。

■認定に向けた進展 (郡・コミュニティレベル)

対象4郡において、CLFZ認定単位であるエリア/ゾーン・カウンスル全体で要件が整備されるよう、郡政府、コミュニティ及び学校で活動を実施しました。本報告期間では、郡行政官の能力強化および計35コミュニティを対象とした研修及び仕組み構築を支援しました。

先行する2郡でアセスメントを受ける準備が整い、後発の2郡では企業やNGOとの連携による新たなアプローチを試行しました。



政府の専門技術委員会と国のアセスメントチームによる合同会議



コミュニティでの研修の様子

* このプロジェクトは、アイ・シー・ネット株式会社と合同会社デロイト トーマツとの共同事業体で実施しています。

2026年2月、Bibiani-Anhwiaso-Bekwai Municipalの1ゾーンが初のCLFZとして認定

主な成果（2026年3月時点）



- プロジェクト対象4郡におけるCLFZ要件の仕組み作り
- CLFZ認定に向けた評価・実施体制を構築
- CLFZ認定のためのアセスメントツールを開発
- データ収集員への研修実施後、対象2郡でアセスメントを実施
- Bibiani-Anhwiaso-Bekwai郡 Subri ゾーン・カウンシルが初のCLFZとして認定が承認された

MMDA (対象行政区)	進捗状況
①Bibiani-Anhwiaso-Bekwai 郡 (Western North州)	アセスメント完了 Subri ゾーン・カウンシルが初のCLFZとして認定公表予定
②Atwima Mponua郡 (Ashanti州)	アセスメント完了 アセスメント実施機関の承認待ち
③Assin South郡 (Central州)	2026年アセスメント実施予定
④Upper Denkyira East郡 (Central州)	2026年アセスメント実施予定

※①～④はJICA案件のモデル活動実施対象郡を示す。

ILO受託事業:ガーナ共和国カカオ生産地域における児童労働撤廃に向けた気候変動への対応力強化 (Climate Cocoa Project)

- 国際労働機関 (ILO) から受託し、ガーナのビビアニ・アフィアソ・ベクワイ郡の2村において、ガーナ政府の児童労働フリーゾーン (CLFZ) ガイドラインに基づく、地域主体の児童労働予防・対応体制づくりを支援しました (案件実施期間: 2025年6月~2026年2月)。
- 地域住民、学校、行政、農家組織と連携し、子ども保護委員会や学校管理委員会の設置・能力強化、家庭訪問や啓発活動、コミュニティの世帯登録簿整備、子どもの保護に関する地域ルールづくりを進めました。また、児童労働リスクのある子どもの特定を行い、カウンセリングや学校復帰・継続就学支援を実施しました。
- さらに、学校改善計画の策定を支援し、教室・トイレ・給食施設等の整備を行うとともに、学習教材、衛生用品、スポーツ用品などを提供しました。加えて、行政・学校・地域が連携して児童労働に対応できる体制づくりを進め、CLFZモデルの地域実践を支援しました。



ILO受託事業：ガーナ共和国カカオ生産地域における児童労働撤廃に向けた気候変動への対応力強化（Climate Cocoa Project）

地域主体で子どもを守る仕組みが定着

本事業を通じて、地域住民・学校・行政が連携し、子どもたちを継続的に見守り支える体制づくりが進みました。

子どもの保護と就学支援

- 18人の児童労働者を保護
- 200人の児童労働リスクのある子どもを特定
- 計218人にカウンセリングや学用品支援を実施

学習環境の改善と出席率向上

- 老朽化した校舎の建て替え
- 水道施設・トイレ・給食施設を整備
- 学習教材、スポーツ用品、衛生用品等を提供
- 出席率：プロジェクト開始時出席率 82%
→ プロジェクト終了時 97%

持続可能な地域の仕組みづくり

- 行政・学校・地域が連携するCLFZモデルの実践が進展
- 地域主体で子どもを守る仕組みの基盤が構築された

地域の意識と行動の変化

- 子ども保護委員会による見回り・家庭訪問活動が継続的に実施されるようになった
- 地域住民が子どもの状況を把握し、早期対応できる体制が強化された
- 児童労働のリスクや、子どもの権利・教育の重要性について、地域内で共通理解が広がった



「ガラムセイ」

カカオ産業・児童労働・農家の収入と複雑に絡み合う

カカオ産業を脅かす「ガラムセイ」

「ガラムセイ」とは、ガーナで行われている違法な小規模金採掘活動のことを指します。近年、金価格の上昇を背景にガラムセイが急速に拡大しており、採掘用地を確保するため、カカオ農家に土地の売却や貸与を持ちかけるケースも報告されています。カカオ生産による収入が芳しくない状況が続く中、一時的にまとまった収入を得られることから、農地を手放してしまう農家もいるといわれています。しかし、土地を失うとその後はカカオ生産による収入源を失うことになり、家計のさらなる悪化につながる可能性があり、児童労働リスクの増大やカカオ産業の持続性にも負の影響を生み出しています。

ガーナでは、鉱山で子どもが働くことは禁じられています。しかし、おとなが鉱山から持ち帰った土砂や鉱石を家の庭や採掘場外の川で洗浄・選別する作業など、隠れた場所での児童労働が後を絶ちません。

ガラムセイでの児童労働に関する規則

(18歳未満の子どもの鉱山現場での就労について)

- 18歳未満の子どもは、小規模鉱山も大規模鉱山も、鉱山現場への立ち入りが全面的に禁止されている。
- Minerals Commissionは、すべての合法的な鉱山会社に2週間の監視訪問を実施しており、18歳未満の子どもが現場にいた場合、その鉱山会社のライセンスを取り消し、法的措置も講じる。
- 18～19歳の若者は、露天掘り鉱山現場でのみ就労が許可されている。
- 20歳以上の者は、地下鉱山現場での作業も許可されている。

子どもたちの生活のすぐ隣にある「ガラムセイ」

ここからは、ガラムセイや子どもたちの反応などを写真と共にお伝えします。

こちらの写真は、学校に行っていない少年3人に遭遇した場所の様子です。
学校のすぐ裏にあるこの場所からは川に下る道が続いており、その先には放置されたガラムセイサイトが広がっているのが見下ろせます。



カカオ生産地に広がる「ガラムセイ」



規制するだけでは解決とならない複雑性

学校の授業時間帯に10歳くらいの少年3人がコミュニティ内の草むらで土を掘って運んでいるところに遭遇しました。雨上がりで土は泥になっており、かなりの重さがあるにもかかわらず、頭に乘せて家へと運んでいました。

呼び止めると土を置いて逃げたのですが、すぐに戻ってきたので尋ねてみたところ、家に持ち帰り、泥の中から金を探すのだといいます。

なぜ学校に行かずにそんなことをしているのかと尋ねると、「金が見つかったら2億セディもらえるとされたから」と答えました。

少年は続けて、「勉強したところで、村の人たちはみんな仕事もなく貧しい暮らしをしている。立派な職業だと言われる教員ですら車も持っていない。だから学校に行く時間は無駄だと感じる」と語りました。



法律をすりぬけて行われる児童労働

プロジェクトスタッフとともに採掘場周辺を巡回していた際、川辺で作業している少年を見つけました。少年はビニール袋に詰めてきた土を器に開け、水を加えて何度も揺すりながら、土砂の中から金を選び分ける作業を行っていました。金を沈めながら土を洗い流す作業を、驚くほど手際よく行っています。

少年が作業している場所は、厳密にはガラムセイサイトの敷地外です。18歳未満はサイトへの立ち入りが禁止されているからです。しかし、少年によると、父親がガラムセイサイトで採取した土砂をビニール袋に入れて自宅へ持ち帰り、それを少年が川へ運んで金を選び分けているとのことでした。

少年は学校には行かず、一日中この作業を行っていると言います。少年が一日作業をして得た金を売ると400ガーナ・セディになるそうです。

これは、ガーナの力カオ農家1世帯（4人家族）の年間平均収入24,814ガーナ・セディを日割り換算した約68セディの6倍に相当します。



危険性を理解していても、子どもたちがガラムセイに向かう動機とは

生徒たちに、なぜガラムセイが子どもたちに禁止されているのかを尋ねてみました。

最初は「ガラムセイは僕たちの国を滅ぼす」「環境を破壊している」といった、テレビで繰り返し聞かされている言葉しか出てきませんでした。自分自身や大切な家族、友人にとってどんな危険があるのかと掘り下げて聞いていくと、「水銀による健康被害」「穴に子どもが落ちて命を落とす」という答えが返ってきました。

このやり取りから、子どもたちがガラムセイの危険性を知らないわけではなく、健康被害や事故のリスクについて一定の知識を持っていることがわかります。それにも関わらずガラムセイに関わる子どもが後を絶たないのは、危険性を理解していても自分ごととして捉えにくく、目の前で得られる収入の魅力がリスクを上回っているためかもしれません。——ガラムセイの悪影響について説くだけでは、子どもたちがガラムセイに向かうのを止めることができずにいます。



『ガラムセイで得られる400セディのために学校を休んだ1日が、 あなたの人生にとって何十倍もの損失になることを知いなさい』

校長先生は、子どもたちがガラムセイに向かう背景には、コミュニティのおとなたちの責任があると語ります。

「学校に来なさい。学んで、事業やお金、人を動かす側になりなさい」。

この言葉は子どもたちだけでなく、地域全体に向けられたメッセージでもあります。毅然とした姿勢と温かい眼差しで、校長先生は子どもたちに語りかけ続けています。

コミュニティの主要関係者を集めてガラムセイの問題について話し合った際、学校の校長先生は「子どもたちが『勉強なんて時間の無駄、ガラムセイでお金を稼ぎたい』と考えてしまうのはおとなの責任。私は『ガラムセイで得られる400セディのために学校を休んだ1日が、あなたの人生にとって何十倍もの損失になることを知いなさい』と伝え続けます」と話します。

プロジェクトでは、就学を後押しするために制服や学用品の支給を行っています。制服の採寸では、緊張しながらも少し誇らしげな表情を浮かべる子どもたちの姿が見られました。「学校に戻る」という選択は、子どもにとって大きな一歩です。その一歩を現実のものにするための支援が、現場では行われています。



学校に来るよう語りかける校長先生（左）



制服のサイズを採寸している様子

ガラムセイと児童労働の問題は、単純な善悪では語れない複雑な背景

ガラムセイによる児童労働を防ぐため、コミュニティでは子ども保護委員会による見回り活動や、コミュニティ規則の策定、住民への啓発活動など、地域ぐるみの取り組みが進められています。

子ども保護委員会と学校が連携し、子どもたち向けの啓発イベントを実施しました。クイズゲームを通じて、子どもたちは自分たちの権利や、児童労働とガラムセイのリスクについて学びました。また、校長先生は子どもたちとともにドラムを叩きながら村を練り歩き、学校に戻ることを大切さを呼びかける活動も提案しています。ガーナも国を挙げてガラムセイの取り締まりや国民への啓発を行っていますが、持続的な変化を生み出すためには、規制だけでなく、地域住民自身が問題を自分ごととして捉え、行動を起こしていくことが欠かせません。

ガラムセイと児童労働の問題は、貧困や将来への希望の欠如、生計手段の不足など、さまざまな要因が複雑に絡み合っています。だからこそ、子ども、家庭、学校、そしてコミュニティが一体となり、時間をかけて向き合っていく必要があります。

ACEは児童労働フリーゾーンの構築を支援、子どもたちが「学校に行く」という当たり前の権利を守り、将来への希望を持てる環境をつくるため、これからは現場で起きている現実を目を向け続けながら、地域とともに歩んでいきます。



コミュニティの主要関係者を集めてガラムセイの問題について話し合った際、学校の校長先生が発言しているところ

3つの国際会議

国際社会へ児童労働フリーゾーンの成果を発信

CLFZ アドボカシージャーニー

児童労働の予防・撤廃に有効なアプローチとして、CLFZの国際的な発信を強化

児童労働の予防・撤廃の文脈において重要な年だった2025年。政策提言の機会を最大限に活用するため、3つの国際会議へ参加。ガーナ政府と連携して進めるCLFZについて、より一層国際社会への発信に注力しました。

東京 2025年6月



児童労働ネットワーク (CL-Net)
Stop Child Labour Network

院内集会「児童労働ゼロ、その日はいつ? ~SDG 8.7 児童労働撤廃目標期限の2025年の今、私たちにできることは? ~」にて、外務省、厚労省、法務省など省庁関係者、国会議員、NGO、大使館関係者の前で、CLFZの取り組みや期待されるアウトカムを紹介し、国際的な連携や官民連携の重要性について訴求しました。



ニューヨーク 2025年7月



United Nations

High-Level Political Forum
on Sustainable Development

国連ハイレベル政治フォーラムにて、児童労働をテーマとする唯一のサイドイベント（ハイブリッド開催）を主催。CLFZ構築支援に発展したACEのこれまでの活動による知見を共有し、ガーナ政府担当者からCLFZ制度とその課題について国際社会に共有しました。



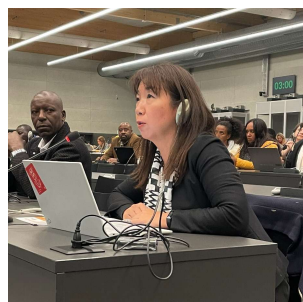
CLFZ アドボカシージャーニー

児童労働の予防・撤廃に有効なアプローチとして、CLFZの国際的な発信を強化

ジュネーブ 2025年11月



第14回国連ビジネスと人権フォーラムにて、アフリカ共同セッションの企画・実施に貢献。登壇したガーナ政府担当者から、人権デュー・ディリジェンス観点などからCLFZとの連携によるサプライチェーン上におけるインパクトの相乗効果の可能性を共有した。また、ACEはパートナーシップに関する質問などを登壇者に投げかけ、議論の発展に貢献しました。



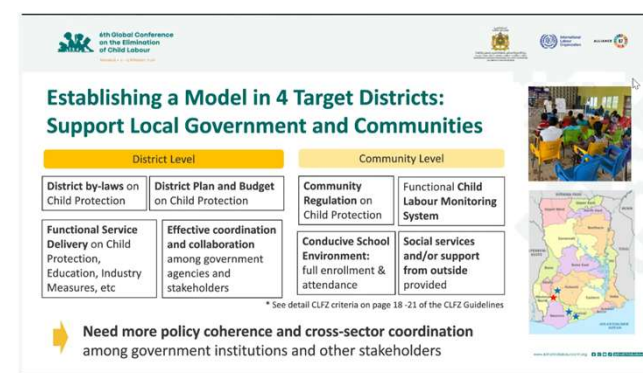
マラケシュ 2026年2月



6th Global Conference
on the Elimination
of Child Labour

Marrakech • 11 - 13 february 2026

第6回児童労働反対世界会議に現地参加し、ガーナ国内でCLFZと紐づいて実施されている4つのプロジェクト実施機関と共同でサイドイベントを実施。ACEは、JICA案件の実施機関として、プロジェクトレベルでの連携によるCLFZのこれまでの成果と今後のスケールアップについて共有しました。



業界・企業・学校との連携

広がる支援の輪

企業とともに広げる“しあわせへのチョコレート”の輪 商品販売と連動した寄付や、継続的なご支援により、支援の輪を広げています

森永製菓

2011年より「1チョコ for 1スマイル」の支援を通じた連携を継続。2025年度はグループ会社（森永商事）も支援の輪に加わり、特別期間では全国パティシエとのコラボキャンペーンを実施。また、社長や役職員による出張授業を通じて、カカオ産業をめぐる社会課題について子どもたちが「自分ごと化」して考えるきっかけを提供しました。



森社長による出張授業

有楽製菓

工場見学施設「ブラックサンダーワク ⚡ ザクファクトリー」を2025年5月にオープン。見学コーナーに児童労働の実態やACEの活動紹介パネルを設置し、来場者への啓発に取り組んでいます。



豊橋工場お披露目会に参加

セブン-イレブン

2023年度より実施しているセブンプレミアム寄付つきチョコの販売が継続され、全国のセブン&アイグループ店舗で展開。パッケージのQRコードを通じた啓発にも取り組んでいます。



認定NPO法人ACEを通じて
売上の一部をカカオ生産地にお届けします。



フェリシモ

「幸福（しあわせ）のチョコレート®」として販売されるすべての商品価格の1%が「LOVE & THANKS基金」として「スマイル・ガーナ プロジェクト」への支援となる連携を継続。現地視察で得た学びや情報を活かし、消費者に対する発信を一層強化しています。



バレンタイン「#キフチョコ」キャンペーン

継続的な参加の輪を広げる新たな取り組みを開始

- バレンタイン時期のチョコレート購入を通じて、企業・団体・消費者が継続的に参加できる寄付・啓発の仕組みとして「#キフチョコ」を立ち上げました。

キャンペーン概要

- キャンペーン名：「#キフチョコ」
よろこび2倍。キフチョコで届ける、ちょっといい未来。
- 期間：2026年1月13日～2月14日



企業/団体は寄付になる商品の販売とともに、本キャンペーンへの共感や自社/自団体の想いを消費者、社会に届け、個人は寄付になる商品を選び、それを発信することで「ちょっといい未来」を創り出す一人になることを目指しました。

今後は、企業/団体との連携を広げながら、毎年のバレンタインを通じて、継続的に支援と社会的関心を高めるキャンペーンとして育てていきます。

成果・実績

- 初年度の参加企業/団体（9企業/団体 敬称略）
 - ・ 森永製菓株式会社
 - ・ 株式会社フェリシモ
 - ・ 芥川製菓株式会社
 - ・ セルリアンタワー東急ホテル
 - ・ Nama Gateau Au Chocolat
 - ・ 東洋英和女学院中高部
 - ・ 有楽製菓株式会社
 - ・ サタデイズ株式会社
 - ・ 株式会社ローソン

連携事例

キャンペーン実施期間中、芥川製菓主催のチョコレートマーケットやNama Gateau Au Chocolatとの共催イベントにおいて、スマイル・ガーナプロジェクトの紹介を行い、ACEを初めて知る方に情報をお届けするとともに、「#キフチョコ」参加方法を通じてたくさんのご支援をいただきました。



JICA「開発途上国におけるサステナブル・カカオ・プラットフォーム」

ACEは、「開発途上国のためのサステナブル・カカオ・プラットフォーム」に設立当初の2020年から加盟し、業界内の連携促進に取り組んできました。2021年には、児童労働撤廃分科会の立ち上げに携わり、ACEは事務局として、企業・団体と連携しながらカカオ産業における児童労働撤廃に向けた実践の加速と協働の基盤づくりをしています。

2025年6月、児童労働反対世界デーを目前に、同分科会の会員組織と共に、児童労働撤廃に対する共同コミットメントを発表しました。また、同分科会にてガーナのCLFZ制度構築に関する最新情報や、児童労働の世界推計、カカオ産業における児童労働と関連する課題について、最新の情報をもとに勉強会を実施しました。

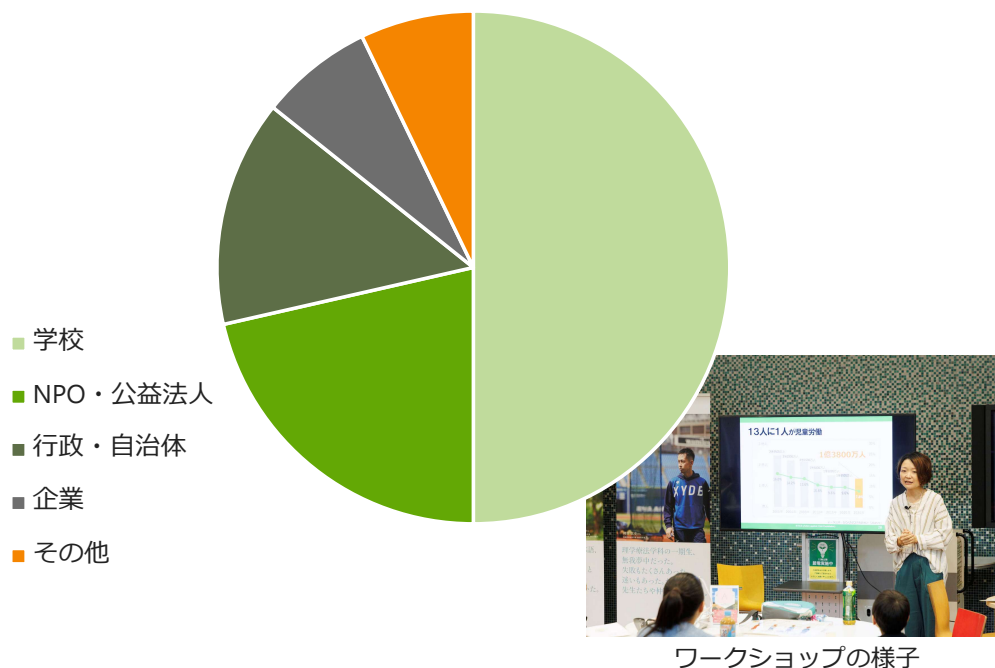
また、3年目の発行となる「児童労働のないカカオ産業に向けた共創レポート 2024-2025」の策定プロセスにも携わり、セクターを超えた協働の深化が見られた国内外における各社の取り組みの可視化・発信に貢献しました。



児童労働撤廃に対する共同コミットメント発表の様子

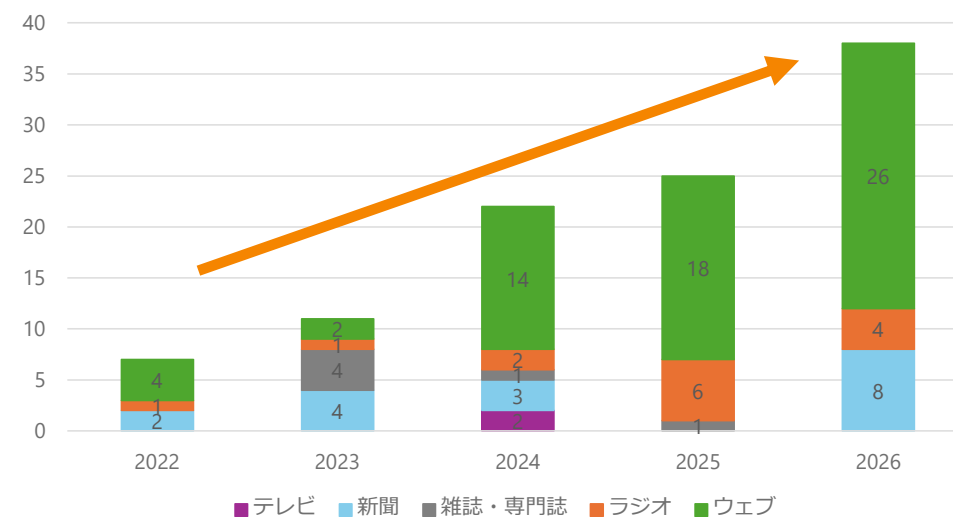
エンゲージメント（講師派遣・メディア掲載）

講師派遣実績



教育機関を中心に15団体（全17回）の講師派遣を実施。大学・高校・中学を中心に、企業・自治体・市民団体にも広がり、多様なステークホルダーとの接点を創出し、2763人に力カオ産業の児童労働について伝えました。

バレンタイン時期 メディア掲載実績



2月のバレンタイン時期には、「#キフチョコ」をメインに、過去最高となる38件のメディア掲載数となりました。また、年間では48件のメディア掲載数がありました。
<https://acejapan.org/info/category/media>

今後の展望 点から面へ ― 地域の変化をさらに広げるために



次年度の取り組み

- CLFZ認定地域のさらなる拡大と制度定着を支援します
- 国際機関との新規プロジェクト開始・実施体制を強化します
- ガラムセイなど新たな課題への対応を強化します
- 企業・地域パートナーとの連携を拡大していきます

ACEが果たす役割

現場、行政、企業、地域コミュニティをつなぎ、
現場の変化を持続可能な仕組みへ広げる



參考資料

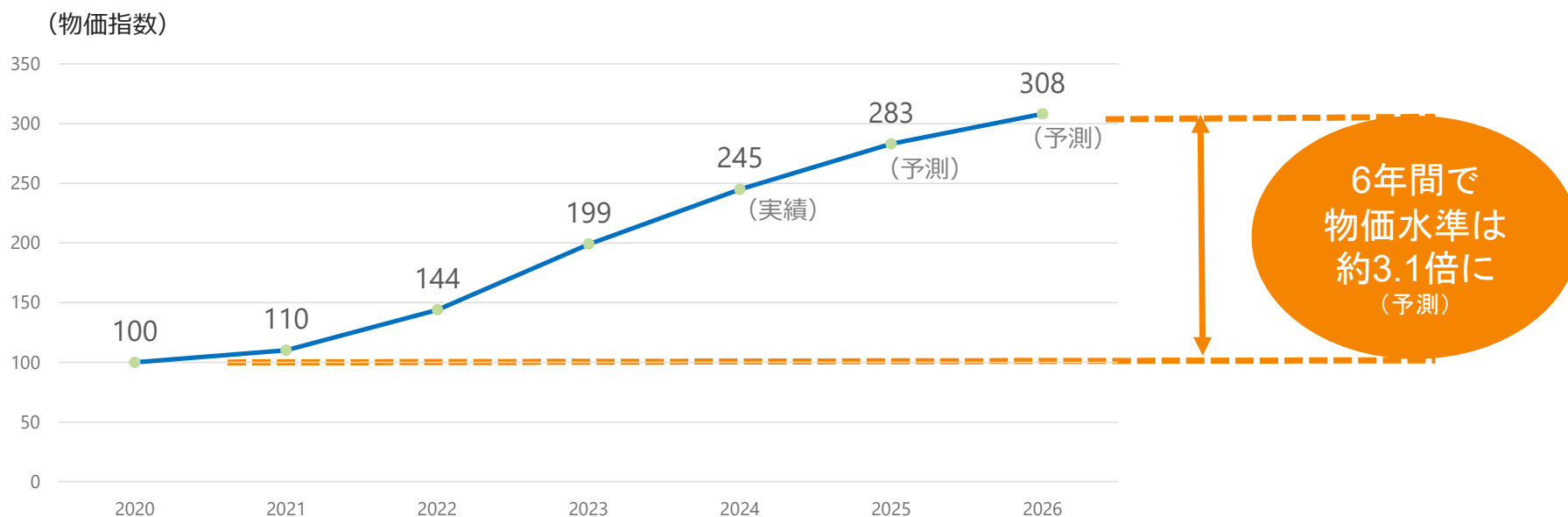


近年の物価上昇により、活動を維持するための費用が増えています

■ ガーナの物価水準の推移（2020年＝100）

下のグラフは、2020年を100とした場合の物価指数の推移を表しています。

近年ガーナでは急速な物価上昇が続いており、2020年を100とした場合、2026年には約308となります。



物価上昇の影響は、さまざまな活動費用に及んでいます

- ・ 現地スタッフの給与水準の見直し
- ・ 交通費や物資購入費など活動経費の上昇 など



現地の支援活動の内容にも大きく影響

それでもACEは、子どもたちへの支援の質をできるだけ維持できるよう、努力を続けています。

※出典：※2020～2024年はWorld Bank「Inflation, consumer prices (annual %）」、2025～2026年はAfrican Development Bank「Ghana Economic Outlook」の予測値をもとにACE作成。

活動の質維持のため、ご支援の継続をお願いします！

「チョコ募金」にご協力をお願いします！



- 1,000円は、子ども1人の1か月分の給食に
- 5,000円は、子ども1人の通学に必要な制服や学用品一式に
- 8,000円は、家庭の収入増加をめざす、カカオ農家一人分の農業訓練に

「チョコ募金」詳細はこちらから：
<https://acejapan.org/support/choco>





クラウドファンディング、今年も実施しています！



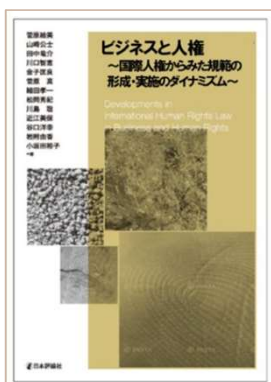
ガーナから日本まで。
子どもの権利が守られる社会へシステムチェンジ！

- ・ 実施期間：2026年5月21日（木）～7月31日（金）
- ・ 目標金額：1,000万円

すべての子どもが、
生き生きと輝けるように。
システムチェンジへの挑戦に、
力を貸してください。



出版物



ビジネスと人権—国際人権からみた規範の形成・実施のダイナミズム

出版社：日本評論社
発行日：2026年4月
定 価：5,500円＋税
著 者：菅原 絵美、山崎 公士、田中 竜介、川口 智恵、金子 匡良、菅原 真、細田 孝一、松岡 秀紀、川島 聡、近江 美保、谷口 洋幸、岩附 由香、小坂田 裕子



子どもたちにしあわせを運ぶチョコレート。世界から児童労働をなくす方法

出版社：合同出版
発行日：2015年2月14日
定 価：1,400円＋税
著 者：白木朋子



わたし8歳、カカオ畑で働きつづけて。 —児童労働者とよばれる2億1800万人の子どもたち—

出版社：合同出版
発行日：2007年11月25日
定 価：1,300円＋税
著 者：岩附由香、白木朋子、水寄僚子

詳しくは[ACEウェブサイト](https://www.ace-japan.org/)をご覧ください



プロジェクトメンバー



代表（アドボカシー）
岩附由香



副代表（プロジェクト全体統括）
白木朋子



ガーナ事業担当
赤堀友希



ガーナ事業担当
伊藤愛



ガーナ事業担当
山口沙樹子



副代表（啓発・市民参加）
杉山綾香



企業及びネットワーク連携
佐藤有希子



企業連携・ガーナCLFZ
松本梨佳



アドボカシー・企業連携
川村祐子



ファンドレイジング
屋代健一